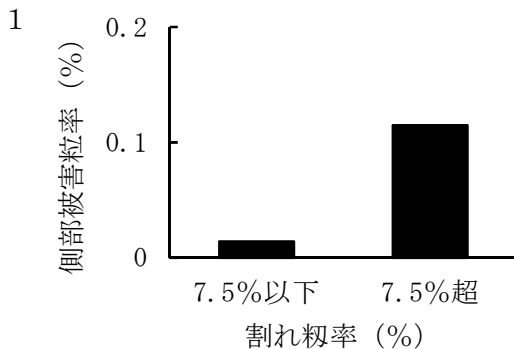


## 「ひとめぼれ」における割れ糶の発生要因と 斑点米カメムシ類の追加防除の要否

### 【概要】

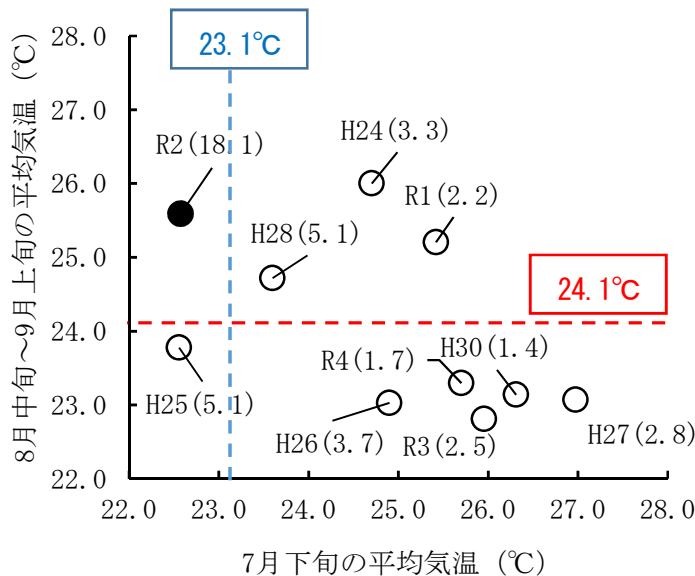
- 1 「ひとめぼれ」は、割れ糶率が7.5%を超えると斑点米カメムシ類による側部被害粒率が0.1%を超え（図1）、農産物検査で1等から落等する可能性が高くなります。
- 2 「ひとめぼれ」の割れ糶の発生には、減数分裂期（7月下旬）の低温と登熟期間（8月中旬～9月上旬）の高温が影響します。そのため、減数分裂期が低温で経過した場合、気象予報を確認し、登熟期間が高温で経過することが予想される場合は、斑点米カメムシ類の追加（2回目）防除を検討してください。

### 【試験データ等】



【解析・調査方法】：岩手県病害虫防除所がH24～R4に実施したひとめぼれの斑点米と割れ糶調査結果138事例（斑点米カメムシ類の防除1回、8月上旬調査において、本田内すくい取り虫数2頭以下、本田内雑草の発生が少以下、周辺に雑草が無い調査地点のデータ）を用いてROC解析したところ、割れ糶率が7.5%を超えると斑点米カメムシ類による側部被害粒率が0.1%を超える可能性が高い（AUC 0.82、 $p < 0.01$ ）。

図1 ひとめぼれの割れ糶と側部被害粒との関係（H24～R4）



【解析方法等】岩手県病害虫防除所がH24～R4に実施したひとめぼれの割れ糶調査結果903事例を用いて、割れ糶率が7.5%を超える気温条件について解析。割れ糶の発生が多くなる平均気温の目安は、7月下旬23.1°C以下、8月中旬～9月上旬24.1°C以上であった。各地域のひとめぼれの生育ステージは表1の通りであり、7月下旬を「減数分裂期」、8月中旬～9月上旬を「登熟期間」とした。

表1 ひとめぼれの生育ステージ

減数分裂期	出穂期
7月24日	8月2日

※農業改良普及センター調べH30～R4の平均値

図2 年次別の7月下旬、8月中旬～9月上旬の平均気温と割れ糶率（H24～R4）

- ・図中の括弧書きの数値は各年次の平均割れ糶率、青点線（7月下旬）、赤点線（8月中旬～9月上旬）は割れ糶の発生が多くなる平均気温の目安

【令和5年度成果】水稲品種「ひとめぼれ」における割れ糶の発生要因と斑点米カメムシ類の追加防除の要否（R5-指-13）